



## 読者からの声

石川医報の「読者からの声」は、会員がいろいろな意見を交換する場です。  
ぜひ、皆様からのご意見、ご投稿をお待ちしております。  
(編集部より)

### 女性医師の窓

## 岸先生、ありがとうございます

芳珠記念病院病理診断科 北村 星子

皆さんは病理医の岸京一郎先生をご存知でしょうか？ 医療界でもまれな存在である病理医ですが、一般の方への認知度も非常に低いものとなっております。しかし、ついに一般の方にも知られる病理医が登場しました。それが岸先生です。岸先生は昨年放送されたドラマ『フラジャイル 病理医岸京一郎の所見』の主演であり、TOKIOの長瀬智也さんが演じられ、従来の病理医のイメージを覆すようなワイルド系イケメンの病理医でした(原作の漫画ではさしてイケメンではない)。病理研修医の宮崎先生は武井咲さんが演じていましたが、武井さんのような可憐で一生懸命な若い女性病理医は結構いると思います(『後輩がかわいいフィルター』が発動しているかもしれませんが)。病理医のなり手がいない大きな原因には、病理医自体がよく知られていないこともあると思われます。しかし、ドラマの公開後は親戚のおばさんに「ああいうお仕事してるのねー」と言われたり(口頭で説明してもいまいちわかってもらえてなかったようです)、高校の先生には「医学部志望で『俺も病理医になる!』って言ってたやついたよ」と教えてもらったり、病理医というものが世間にちょっとは周知されてきたことを感じました。そして先日のワイドショーにて驚きのインタビューが公開されました。なんと、中学生になった芦田愛菜さんの将来の夢は『病理医』だそうです!やはりドラマの『フラジャイル』で病理医を知ったとのことで、改めてテレビの威力に脱帽です。このインタビューを見て、「病理医って何?」とネットで検索した人もきっといたでしょう。

さて、そんな岸先生が「定時に帰れるのが病理医だ」とおっしゃっていました。実際に定時に帰れるのかというと、その病院・その時の忙しさにもよりますが、帰ろうと思えば帰れる、というのが正解だと思います。現在の私に至っては、病院の短時間勤務制度を利用して定時よりもさらに早く帰らせてもらっています(術中迅速診断時やカンファレンスは除いてですが)。時間の使い方が比較的融通が利くのは病理医のいいところの一つであり、『QOLが高い』というのが病理医勧誘の常套句です。最近の傾向としては、数年臨床医として働いてから病理医に転向する女性医師が増えている印象で、結婚や子育てが転機となることも多いようです。先日の学会では、10年ほど前に1か月ですが病理に研修に来ていた研修医さん(当時)が、「外科医から病理医に転向しました」とわざわざ報告してくれました。彼女によると、結婚・子育てに加えて、その1か月間病理で研修したことも転向のきっかけとなったとのことでした。本当にうれしい出来事でした。普段は表に出ない職種ですが、病理医の業務自体も大変魅力的なものです。『病理医』が自分や家族にとってよりよい人生になるであろうという選択肢の一つであるのは喜ばしいことです。現在の病院でもたまに研修医の先生が研修に回ってきます。すぐにではなくても、彼ら・彼女らが「そういえば病理医もいいかな」と思う日が来るのを楽しみにして、仕事に、指導にと頑張っていこうかと思っています。この欄を読んでらっしゃる先生方で、現在の状態に行き詰まりを感じている方や、進路にお悩みのお子様やごきょうだいがいらっしゃれば、病理医も選択肢の一つにお加えくださいますと幸いです。